

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】

都道府県名	福井県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	金津町金津小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	27
児童数	98	94	112	102	95	106	5	612	

実践研究の概要

1. 研究主題（テ - マ）

自ら学び、考え、確かな学力を身につけた児童の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年 算数  
子どもの理解力や学習の定着に個人差が出やすく、つまずきの種類や程度がさまざまである教科であるため。
- ・1、2年生 国語  
昨年度の保護者を対象に行ったアンケートの結果、国語についても指導の充実を図ってほしいという希望があったことと、文章題でのつまずきが多かったため。
- ・3年生～6年生 社会、理科（教科担任制）  
県の学力調査で県平均を大きく上回っているとは言えなかったため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テ - マ</p> <p>自ら学び、考え、確かな学力を身につけた児童の育成 （各学年のサブテ - マ）</p> <p>1年 ... 基礎学力の定着を図る工夫</p> <p>2年 ... T Tの効果的な指導方法と個に応じた支援の工夫</p> <p>3年 ... 算数の基礎を徹底するノ - ト指導と評価規準表の利用</p> <p>4年 ... T Tの効果的な指導方法と評価について</p> <p>5, 6年... 自分の学力を高め、自信をもって学ぶことができるための習熟の程度に応じた指導方法の充実および評価の工夫</p> <p>研究の見通し</p> <p>算数科では、小学校の段階から、理解力や学習の定着に個人差が出やすく、つまずきの種類や程度もさまざまである。そのため、本校では、まず個に応じたきめ細かな指導を行うための工夫をしていくことによって、より確かな学力が身につくものと考えた。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1 算数科における個に応じたきめ細かな指導を行うための授業体制の工夫。</p>	
	<table border="1"> <tr> <td>1,2,4年生</td> <td>T . Tを生かした授業の工夫（週2～3時間）</td> </tr> </table>	1,2,4年生
1,2,4年生	T . Tを生かした授業の工夫（週2～3時間）	

3年生	1クラスを2つに分けた少人数学級の授業（週4時間）
5,6年生	同学年3クラスを4つに分けた習熟度別の授業 【いきいきコース(基礎基本コース)が3クラス、のびのびコース(発展コース)が1クラス】 (そのうち5年生のいきいきコースは週2時間TT授業、6年生のいきいきコースは週1時間TT授業)

5,6年生においては、学年で同一時間に算数の授業を行えるように時間割を変更した。

2 5年生の取組の概要

努力事項は、次の3つとした。

<p>いきいきコース(基礎基本コース)とのびのびコース(発展コース)の、どの児童にも充実感を味わわせるための授業の工夫を行う。 毎時間の評価を充実させ、一人ひとりが伸びるための指導を工夫する。 学習したことの定着を図り、学習する意欲を高め、自信を深めるための『わかるまでがんばろう算数』の時間を設定する。</p>
--

(1)習熟度別少人数指導を行う。

- ・保護者向けに、習熟度別少人数指導を行うための理解や協力を得るためのプリントを配布する。
- ・単元のコース希望プリントを配布する。
- ・あくまでも児童本人・保護者の希望を重視して、コースを決定する。  
《例》「小数のかけ算とわり算(2)」  
いきいき(基礎基本)コース...5年1組24人、5年2組20人、5年3組23人  
のびのび(発展)コース...36人
- ・単元毎に希望をとる。
- ・単元途中でも児童本人と保護者の希望があれば、他のコースへの移動はできる。

	成 果	問 題 点
いきいきコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習中に人に頼ることが減った。</li> <li>・落ち着いて学習に取り組んでいる。</li> <li>・学級単位の授業では挙手できなかった児童が、積極的に発言できるようになった。</li> <li>・教師は、一つ一つの指導が細部まで行き届くようになり、TT授業のときは更に、理解が遅い児童に対して丁寧に指導できた。</li> </ul>	<p>発想が乏しいので、教師主導型で授業が進んでしまう。</p>
のびのびコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学習に対する意欲が向上し、課題に対する意気込みが強くなった。</li> <li>・できなかったことに対して、最後までねばり強く求めてくるようになった。</li> <li>・新しい発見をしている児童に対する周りの児童の感動が強い。</li> <li>・3クラスから集まっているので、緊張感のためか、学習に集中できるようになった。</li> </ul>	<p>つまづいている児童への指導時間がなかなか確保できず、学習の定着が不十分である。 人数が多いので、保護者からはコースをもう1つ増やしてほしいとの意見が出ている。</p>

(2)評価について

- ・評価規準表にそって、名簿に記入していく。  
Cと評価した児童には、その単元の中でBになるような指導を加える。

- ・小テストで評価する場合には、学年で基準を決めて統一する。  
『いきいきコ - ス』と『のびのびコ - ス』はそれぞれ指導の方法が違うので、同じ小テストではない。
- ・単元の評価は、毎時間の評価と、単元末テストの評価を総合して行う。
- ・評価規準表にそった細かな資料も残す。
- ・授業後、自己評価カードを記入させる。

成 果	問 題 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業1時間毎の、児童がどの程度できたかを細かく記録しているため、後日教師が振り返ることができ、指導に役立っている。</li> <li>・自己評価カードの児童の簡単な感想から、授業での一人ひとりのつまずきや、理解できたことに対する感動を把握できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『いきいきコ - ス』と『のびのびコ - ス』で、授業の進め方が違い、毎時間の評価問題も同一でないため、評価の平等性に欠ける可能性がある。</li> <li>・TT授業でないとき、指導をしながらの評価は、煩雑で難しい。</li> </ul>

(3) 『わかるまでがんばろう算数』の時間の設定

- ・前単元までの復習の時間としてプリント5枚を準備する。～ まで、順次難しくなっていく。
- (～ まででは基礎的で確実にできてほしい問題、は発展的な問題)
- ・までできない児童は、水曜日6限目の補充の時間に、わかるまで指導を受ける。

成 果	問 題 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間内にまでできた子の満足度は高く、難しい問題をなんとかして自分の力でやろうとする姿が見られ、自信を深めることにつながっている。</li> <li>・『のびのびコ - ス』で学習している児童の学習の様子を担当が確認することができる。</li> <li>・前単元までの問題に取り組むため、以前に学習したことを忘れてしまうことが少なく、学習の定着が見られる。</li> <li>・わからないところは、恥ずかしがらず質問できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採点のために教師のところと並んで、騒がしくなり、問題を解くことに集中できにくい。 児童が自己採点できそうなところは児童に任せることにした。 児童はどこを間違ったのかを、教師はどこがわからないのかを確認できるようになった。</li> <li>・までやろうとあわてるため、一回で正解しない児童が多い。</li> </ul>

(4) 『すすんで学習』のすすめ

- ・廊下に『すすんで学習』のプリントを随時用意し、児童自らが復習をしていく。
- ・『すすんで学習』を全くしない児童がいないように、週あたりの最低ラインをクラスで決める。

成 果	問 題 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3単元前から直前の学習までの問題に取り組むため、以前に学習したことを忘れてしまうことが少なく、基礎基本の定着がみられる。</li> <li>・友達よりたくさんすることで、意欲的に取り組む児童が多くなってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の処理が大変なので、工夫が必要である。</li> <li>・早くたくさんしたいために、丁寧さを欠く。</li> <li>・自分が得意な問題だけ選んで、苦手な問題にはあまり挑戦しない児童もいる。</li> </ul>

平成 14 年度	(5)『学習補充の時間』の設定(水曜日6限) 担任が補充をしたほうがよいと判断した児童 『わかるまでがんばろう算数』で3枚目までいかなかった児童 欠席をして授業が受けられなかった児童 『すすんで学習』の最低ラインを越えられなかった児童	
	...ホールでフロンティア担当講師が指導	...各教室で担任が指導
	成 果	問 題 点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学习に対する計画性が育つ。</li> <li>・授業を受けられなかった子に対する学習の場を保障してやれる。</li> <li>・休み時間に無理にできなかつたことを指導しなくてもいいので、教師も児童も心に余裕ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校は安全面を考えて複数で帰るように指導しているため、指導を受けている友だちを待っている児童の居場所がなく、落ち着いて学習に取り組めない。</li> </ul>

平成 15 年 度	テ - マ 自ら学び、考え、確かな学力を身につけた児童の育成 研究の見通し ・算数科において、個に応じたきめ細かな指導を行うための工夫をしていくことによって、更に確かな学力が身につくものと考えた。 ・1・2年生で国語科に力をいれることによって、読み・書きの基礎・基本が定着し、すべての教科にその力を生かすことができると考えた。 ・算数(発展コ-ス)、社会・理科において、専門的な知識を有する教員が指導にあたることによって、児童の学ぶ意欲が増し、学習の定着が図れるものと考えた。						
	研究内容・方法 <b>算数科の取組</b>						
	1 努力事項						
	A 個に応じたきめ細かな指導を行うための指導体制を工夫する。						
	B 基礎・基本をしっかり身につけさせ、既習事項が確実に定着できるような手だてを工夫する。						
	C 算数的活動を重視し、筋道立てた考え方ができるように授業の組み立てを工夫する。						
	D 評価を充実させ、個に応じた指導に役立てる。						
	2 主な実践活動						
	(1)努力事項Aについて・・・個に応じたきめ細かな指導を行うための指導体制を工夫する。						
		<table border="1"> <tr> <td style="width: 15%;">1、2年生</td> <td>T.Tを生かした授業の工夫(週2～3時間)</td> </tr> <tr> <td>3、4年生</td> <td>1クラスを2つに分けた少人数学級の授業(週4.3時間)</td> </tr> <tr> <td>5、6年生</td> <td>3クラスを4～5つに分けた習熟度別の授業(そのうち週2時間はT.Tも付いて指導を行う) ...本人および保護者の希望 ・単元前にレディネス調査を実施し、それを持ち帰らせ、保護者とよく相談して希望をとる。</td> </tr> </table>	1、2年生	T.Tを生かした授業の工夫(週2～3時間)	3、4年生	1クラスを2つに分けた少人数学級の授業(週4.3時間)	5、6年生
1、2年生	T.Tを生かした授業の工夫(週2～3時間)						
3、4年生	1クラスを2つに分けた少人数学級の授業(週4.3時間)						
5、6年生	3クラスを4～5つに分けた習熟度別の授業(そのうち週2時間はT.Tも付いて指導を行う) ...本人および保護者の希望 ・単元前にレディネス調査を実施し、それを持ち帰らせ、保護者とよく相談して希望をとる。						

・途中でコ - ス変更を申し出た場合は、変更を認める。  
 基礎基本コ - ス...基礎基本を中心に教科書の内容をしっかりと指導する。  
 (いきいき) 担任が担当する。  
 発展コ - ス...思考過程を重視し、発展的な問題にも挑戦する。  
 (のびのび) 算数教科担任制をとる。発展コ - スを40人以上の児童が希望した場合は、本コ - スも2クラス設営する。

平成15年度 (2) 努力事項Bについて・・・基礎・基本をしっかりと身につけさせ、既習事項が確実に定着できるような手だてを工夫する。

全校一斉『算数マスタ - テスト』の実施

<設定の理由>

- ・問題に対して集中して、真剣に取り組み、正確に処理する能力を養う。
- ・6年終了時(学年終了時)に、小学校の学習内容を習得したという満足感を味わわせる。

<実施方法等について>

- ・週1回月曜日、朝の総合タイムに行く。〔放送で合図〕
- ・1年生～4年生・・・5分間                      5年生～6年生・・・7分間

マスタ - テストの内容(算数部会で自作した問題)

1年生が受ける級	1級～10級	1級～20級	1年生で学習する範囲の問題
2年生が受ける級	11級～30級	21級～40級	2年生で学習する範囲の問題
3年生が受ける級	31級～50級	41級～60級	3年生で学習する範囲の問題
4年生が受ける級	51級～70級	61級～80級	4年生で学習する範囲の問題
5年生が受ける級	71級～90級	81級～100級	5年生で学習する範囲の問題
6年生が受ける級	91級～110級	101級～110級	6年生で学習する範囲の問題

<検定合格>

- ・満点だけを合格とする。
- ・満点がとれなかった児童には、次の検定までに補充を行い、次の週にもう一度同じ級を受けさせる。週の途中で、検定は行わない。ただし、調整月として、7月12月、3月を設け、学年で統一して目標級に到達しなかった児童に挑戦させる。
- ・現在何級であるかは、その児童だけがわかるように配慮し、『算数マスタ - カード』を持たせ、合格したら、合格シ - ル(全学年共通)を与える。

各学年での取組

1年	・授業後における計算スキルの確かめ ・帰りの会におけるフラッシュカード
2年生	・授業後における計算スキルの確かめ ・筆算の補助計算 ・算数の授業はじめ3分間に実施する計算カードの繰り返し練習
3年生	・授業後における計算スキルの確かめ ・チャレンジ算数(自作編集, 児童自作問題も盛り込む) ・ノ - ト指導の徹底 ・my教科書(教師用)の作成・活用 ・ふり返しカードによる自分の学習態度・理解度のふり返し
4年生	・朝の会(週2回)における基礎プリント ・授業後における計算スキルの確かめ

生	・ノ - ト指導の徹底
5年	・『わかるまでがんばろう算数』の時間の設定
6年	・『わかるまでがんばろう算数』の時間の設定 ・『すすんで学習』の奨励

(3) 努力事項Cについて・・・算数的活動を重視し、筋道立てた考え方ができるように授業の組み立てを工夫する。

各学年の取組

平成15年度

1年 ・ 2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが自分の力で問題を解決していけるような指導の工夫をする。</li> <li>・導入を楽しく取り組めるような課題を工夫する。</li> <li>・加法、減法、乗法の立式の意味を理解するために、体感する活動を取り入れる。</li> </ul>
3年 ・ 4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練り合いの時間を十分にとり、友だちの考えと自分の考えの類似点や相違点を見つけられるようにする。</li> <li>・少人数の授業では、「順序選択学習」や「課題選択学習」を取り入れて、児童の意欲を高めたり、操作活動を充実させたりする。</li> </ul>
5年 ・ 6年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ内容を学習するときでも、「発展コ - ス」は、いきなり課題を与えて考えさせ、答えを出した根拠を明らかにさせることに重点をおくようにする。</li> <li>・一方、「基礎・基本コ - ス」は、既習事項を復習してから課題を与え、それと関連して考えられるように思考の流れをつくる支援をする。</li> <li>・自力解決の時間を十分にとり、できた喜び、考えることの楽しさが感じられるように支援していく。</li> <li>・ノ - ト指導を充実させ、自分の考えと友達の考えを区別して書かせ、学習の足跡をはっきり残す。</li> </ul>

(4) 努力事項Dについて・・・評価を充実させ、個に応じた指導に役立てる。

前年度作成の評価規準表を見直した。

発展(のびのび)コ - ス担当教員がその学年の算数の中心となり、何で評価をするのかをプリントして配布する。

評価規準表をもとに評価の一覧表(児童の名簿入り)を作成する。

Cと評価した児童には、その单元の中でBになるような指導を加える。

振り返りカードを書く習慣をつけ、児童と教員が本時を振り返る。

## 1・2年国語科の取組

### 1 努力事項

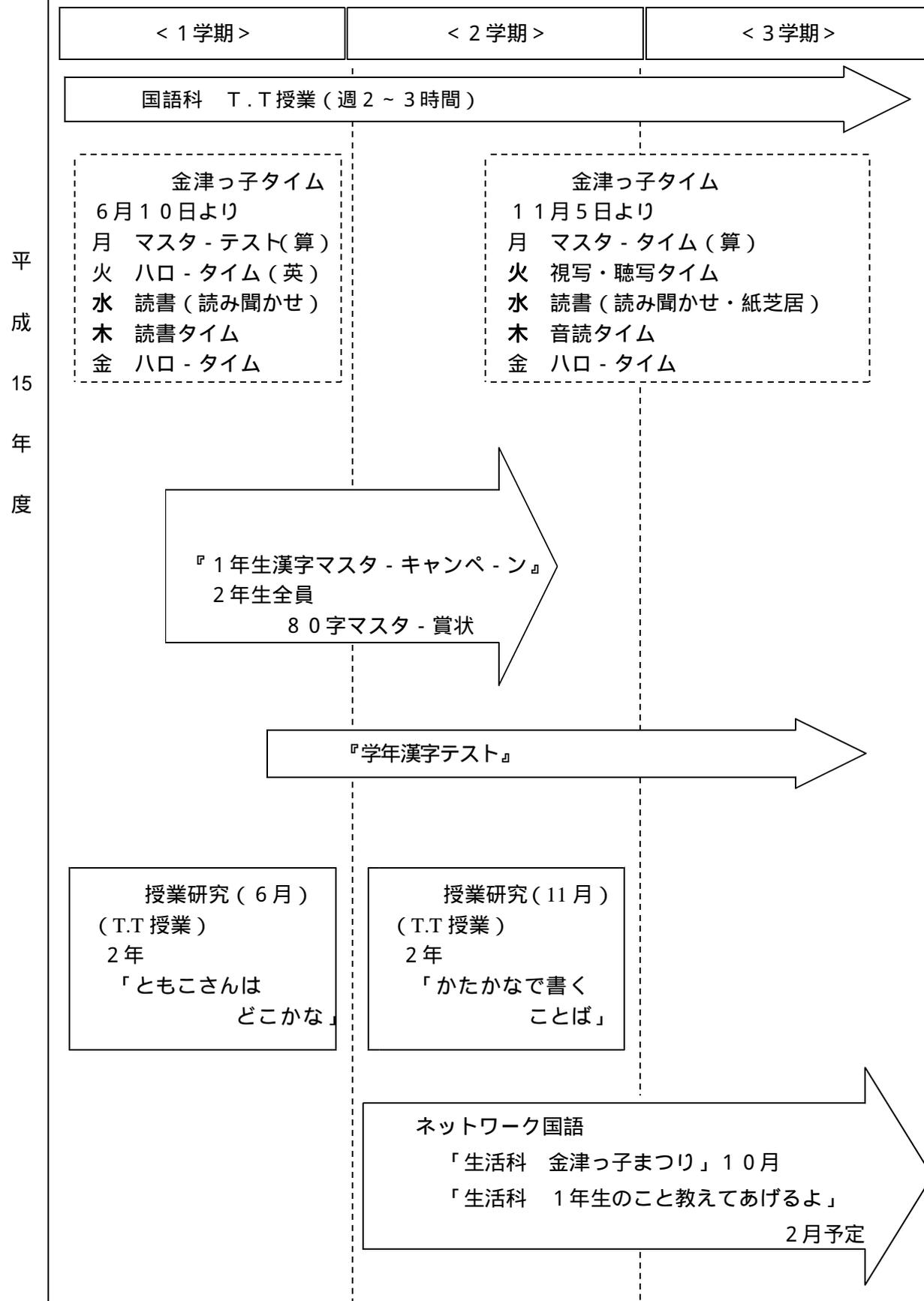
A 基礎・基本を身につけ、楽しく学習に取り組めるようにする。

B 共に学び合い、生きてはたらく言葉の力が定着できるようにする。

2 主な実践活動

(1) 1年間の取組を系統図で表すと下記のようなになる。

ただし、は1、2年生のみで取り組んだことを示している。



(2) 努力事項Aについて・・・基礎・基本を身につけ、楽しく学習に取り組めるようにする。

国語科 T.T授業(週2～3時間)

- ・15年度は、主にT1の教員が授業を進め、T2の教員が補助や個別指導をした。

ア 学習ルールの共通理解を徹底し、定着をめざす。

- ・学習けじめカード(しっかり聞く・ていねいに書く・はっきり話す)
- ・鉛筆の持ち方(親指ポン、人差し指ポン、中指そ〜と後ろから)
- ・字を書く姿勢(字を書く姿勢いいですか 足は磁石おへそ真ん中 せずじはピンと左手おさえて 鉛筆は正しく持ってしっかり書きましょう)

\*時計の歌で

イ 個別指導

- ・1年生1学期におけるひらがな学習や2年生漢字学習での個別指導をした。
- ・指示を理解できない児童や遅れがちな子への個別指導をした。
- ・表現教材の下書きやテスト・プリント直しをした。

ウ 指導過程における支援の仕方

- ・導入時などに2教員の掛け合いで役割演技をし、児童の興味関心を高めた。
- ・グループレッスン時には、半分ずつ担当してきめ細かい支援をした。
- ・話し合い活動では、T1の教員が指導してT2の教員は児童の意見を整理して板書した。

前期 金津っ子タイム

水 読書(読み聞かせ)

木 音読タイム

後期 金津っ子タイム

火 視写・聴写タイム

水 読書(読み聞かせ・紙芝居)

木 音読タイム

- ・「読めて、書ける子」をめざすためにも、チャレンジマラソンのない前期7月と、後期の11～3月継続した取組をする。内容については、学年部会で話し合った。

『1年漢字80字マスタ - キャンペーン』

- ・2年生全員が、第1学年配当漢字の習得率を7月に実態調査した。楽しんで取り組めるなぞなぞやクイズ形式のテストを利用した。
- ・運動会后、再度挑戦するときには「漢字徹底練習カード」で練習し、毎週水曜日の清掃のない45分間の昼休みを利用し、T2の教師が指導した。
- ・個別指導の徹底で、児童全員が「漢字マスタ - 賞状」をもらうことができた。

『学年漢字テスト』

- ・新出漢字を正しく書き、文や文章の中で使えることをめざして7月から実施した。
- ・1年生は、ひらがなとかたかなから始めた。
- ・学年に応じてシール等での励ましをした。

(3) 努力事項Bについて・・・共に学び合い、生きてはたらく言葉の力を身に付けるようにする。

授業研究(6月)「ともこさんはどこかな」

平成15年度

- ・個に応じたきめ細かな指導をめざしてワ - クシ - トの工夫をした。
  - ・指導過程におけるT1T2の連携の仕方を研究した。
- 授業研究(11月)「かたかなで書くことば」

『ネットワ - ク国語』(国語科と生活科の学習をネットワ - ク化し、生きてはたらく言葉の力を身に付けるようにする)

「生活科 金津っ子まつり」  
 <学習活動の流れ>

楽しい金津っ子まつりをしよう。  
 1年・・・発表をしっかりと聞こう。お店やさんでは、はっきり話そう。  
 2年・・・言葉に気持ちをこめて音読したり、聞く人に分かるように説明の仕方を工夫したりしよう。

国 語 科

1年「よくきいてあてよう」  
 ・わたしは、なんでしょうのクイズを通して、話したり聞いたりするときの大事なことを身につける。  
 2年「声に出して読もう」  
 ・おおきなあれを楽しく音読する。

生 活 科

「金津っ子まつり」  
 1年 ・友達と協力して楽しいお店やさんごっこをしよう。  
 2年 ・本陣を作り、踊りや太鼓や音読の発表して、楽しいお祭りにしよう。

- ・小体育館で金津っ子祭りの発表をして、1年生、2年生の教室でお店やさんを行った。
- ・気持ちが伝わるように発表できた。しっかりと聞けた。
- ・ゲ - ムの方法をお客さんに説明でき、楽しくお店やさんごっこができた。

### 教科担任制の取組

3年生以上で社会科、理科の教科担任制の部分導入を無理のない範囲で行った。

【6年生の例】

学級	教科	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育
1組(担任A・女性・体育)		A	B	A F	E	A	A	A	A
2組(担任B・男性・社会)		B	B	B H	F	G	B	G	B
3組(担任C・女性・算数・学級担任)		C	D	C G	F	C	C	C	A

D：4年担任・男性・社会・学級担任  
 F：無担任 ・男性・国語 ・新採用  
 H：無担任 ・女性・家庭 ・講師

E：無担任・男性・理科 ・教務主任(新採用指導教員)  
 G：無担任・女性・音楽 ・新採用

無理のない範囲での教科担任制導入にした理由は、大きく2つある。

1つめは、小学校では従来より学級担任制が行われてきたのは、児童がまだ幼く、きめ細かい指導には、その方がよいと考えられてきたからである。

2つめは、中学校のように、教員が専門教科を考慮して配属されていないからである。  
 (実際、本校では、算数科と社会科の教員が多い。)

6年社会科の場合、Bは担当する教科数が少なくなることで専門性を生かしながら十分な教材研究の時間をとることができる。また、D(4年担任・男性・社会・幹班)に授業の進め方を相談したり、助言を受けたりすることもできる。

6年理科の場合、Fは専門が国語ではあるが、無担任なので、学級事務などに煩わされることもなく、教材研究の時間を比較的取りやすい。また、Eは初任者の指導教員も兼ねているので、授業の進め方、実験方法、薬品・実験器具の取り扱い方などを、絶えず機会をみて指導することができた。

1 努力事項

<社会科>

A 基礎的な社会科用語が定着するような指導を工夫する。

B 資料をもとに自分の考えをもつことができるような指導と評価を工夫する。

<理科>

A 目的に応じた観察・実験を行うことができるような指導を工夫する。

B 観察・実験をもとに、科学的思考を深めることができるような指導と評価を工夫する。

2 主な実践活動(社会科)

(1) 努力事項Aについて・・・基礎的な社会科用語が定着するような指導を工夫する。

身につけさせたい社会科用語の選定

「わたしたちの金津町」、「きょうどの生活」、東京書籍版教科書の中から、身につけさせたい基礎的な用語を選定した。なお、その中には次の項目を含める。

<3年>

八方位、地図記号、金津町6地区名(金津、伊井、剣岳、坪江、細呂木、吉崎)

<4年>

県内35市町村名と郡名、嶺北、嶺南の地方名

<5年>

47都道府県名と地方名

<6年>

42名の歴史人物、歴史時代名

\* 選定した用語が適当かどうかは、毎年、見直しを行う。

用語定着の実践例(6年)

6年生は突出して用語数が多くなっている。

これは、歴史分野の用語が加わるためである。例年6年生の歴史分野の用語の定着は、決してよくない。単元終了時に行うテストではできていても、学期末テストや県学力調査では、かなり基本的な用語ですら定着していないことがある。

(15年度の9月に実施した、6年1学期に学習した歴史人物・時代・業績の定着度調査では64.2%。)1学期末の段階では、一部の歴史好きの児童を除いては、全く初めての人物や事柄を次々と学習することになるので、定着しないまま次の学習に進んでいき、十分な復習ができないでいるためであると考えられる。これらの人物や事柄が定着していないということは、ごく大まかな各時代のイメージももっていないこと、社会的な思考・判断の基礎となる力が培われていないことを表して

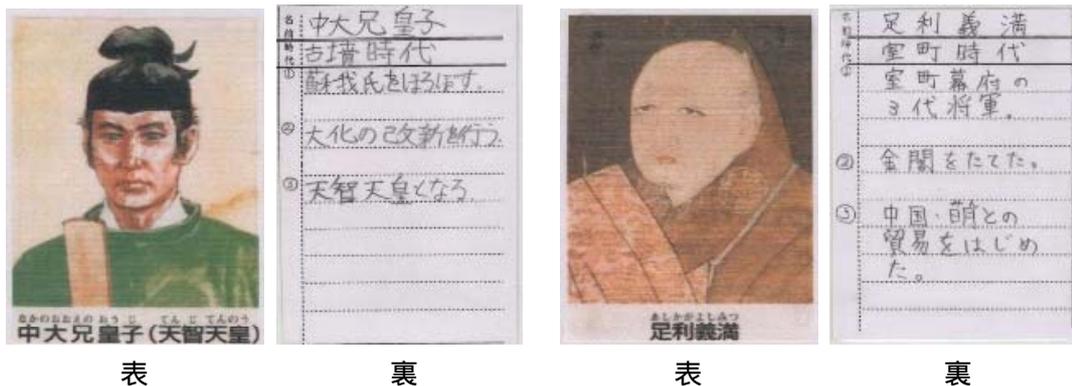
いる。

そこで、『歴史カルタ』を作成し、カルタ取りをしていく中で歴史分野の用語を定着させていく指導法を開発することにした。

#### ア カルタの作成

1学期末～2学期初めにかけて、1学期に学習した23名の人物のカルタ作りを行った。表面は歴史上の人物の顔と名前、裏面は活躍した時代と主な業績(2～3つ)が書いてある。

児童1～2名で歴史人物1名を担当し、裏面の時代名と業績を調べて書き込んで作成した。



表

裏

表

裏

<歴史かるたの例>

#### イ カルタ取り<実践1>

週1回程度、5～10分程度の時間で行っている。

4～5人のグループで行い、教員が読み手となる。教員は、時代名や業績を一つずつ読み上げていき、児童は分かった時点でカルタを取る。カルタを取った後は、札を机の中央でみんなに見せ、教員の合図でその人物の名前を全員で唱える。

札を並べ終わってゲームが始まるまでに、札の裏に書いてある時代名や業績を覚えていてよい。

1つのグループをリ-グと考え、そのグループで1位だった児童は上のグループ(リ-グ)に上がり、最下位だった児童は下のグループに下りる。何回か行っていると、ほぼ同レベルの者同士がグループを構成するようになる。

#### ウ カルタ取り<実践2>

実践1のやり方では、人物と時代や業績は一致するようになるのだが、人物の時代順が分からない児童が多かった。そこで次のような実践も行っている。

グループは実践1のリ-グではなく、座席の生活班で行う。教師は各時代から1名ずつを選び、その人物札を取らせる。そのあと、グループの児童みんなで協力して、時代順に並べる。並べ終わったグループから班長が挙手し、早いところが勝ち。全部の班が並べ終わったところで、答え合わせをし、1枚でも間違えたら順位には入れない。

#### エ 児童の反応

カルタの時間を楽しみにしている児童が多く、休み時間に友達とカルタ取りをしている児童もいる。9月に約64%だった歴史人物の理解状況が、12月には、82%に向上している。

2学期末には、2学期に学習した19名の人物のカルタ作りを行ったが、大変意欲的に製作し、3学期に行うカルタ作りをとっても楽しみにしている様子が見られた。

(2) 努力事項Bについて・・・資料をもとに自分の考えをもつことができるような指導と評価を工夫する。

<資料をもとに自分の考えをもたせる指導の実践例(4年)>

中学年の社会科では、見学を通して学習することが多い。ところが、見学では、児童はいろいろな周りのものに注意を奪われてしまって、肝心のことを見てきていなかったり、時間の都合等であまりメモしてこれなかったりすることが少なくない。

そこで、「資料」をもとに、自分の考えをもたせるための指導の工夫を考えた実践を行った。ここでいう「資料」とは、グラフ、写真、文書だけでなく、見学メモ、インタビュー - なども含んでいる。

単元名 暮らしをささえる水

単元の目標

・人々の生活にとって必要な飲料水を確保する事業が組織的・計画的に進められていることを理解し、地域の一員としての自覚をもつことができる。

・飲料水を確保するための事業や施設・設備の様子を調査したり見学したりして調べ、地域の人々の健康な生活の維持と向上が図られていることを、考えることができる。

資料をもとに自分の考えをもたせるための指導の流れ

ア 見学の観点をつくる。

「浄水場ではどのようにして飲める水を作っているのだろう。」

イ 浄水場を見学する

ウ 見学を整理する観点づくりをする。

<発問> 浄水場は簡単に言うと何をするとところですか。

観点「安全」「安定」

エ 観点到って、資料を見直し整理する。

<指示> 見学でメモしてきたこと、もってきた資料から、「安全」な水を作る(「安定」して水を送る)ということに関係のあることすべてに線を引きなさい。

オ 線を引いたところを検討する。

<発問> 出されたものでおかしいと思うものはありますか。

カ 観点到って、資料をもとに自分の考えをまとめる。

<指示> 自分が、特に大事だと思うものを選んで、浄水場が安全な水を作るためにしていることを、まとめなさい。

<発問> たくさんの検査をしていることと金魚を飼って反応を調べることでは、安全な水を作るためにどちらが大切ですか。

児童の反応・実態

エでは、学級全体として必要な項目は、ほとんど出された。しかし、一人ひとり評価規準によって評価すると該当する部分に線を引くことができている児童が少なくなかった。A評価は数名で、ほとんどがB評価、C評価も数名あった。

しかし、エでのC評価の児童もカでは、自分の考えをまとめることができていた。

また、金魚よりも検査の方が大切だとする意見をきちんと理由をあげて答えられる児童が多く、しっかりと自分の考えをもつことができる児童が多くなったと判断できる。

### 3 主な実践活動(理科)

(1) 努力事項Aについて・・・目的に応じた観察・実験を行うことができるような指導を工夫する。

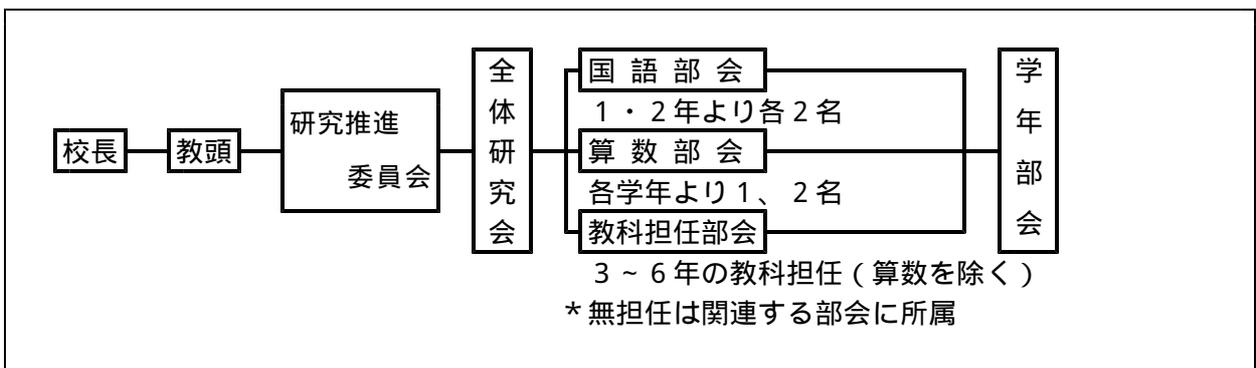
導入時と次時への意欲につなげる終了時の驚きを与える演示実験

目的に応じた観察・実験を行うためには、児童自身の「なぜだろう?」「調べてみたい!」という気持ちを高めなくてはならない。

平成15年度	<p>そのため、小学校の教科書では取り扱わない実験、6年(下)の「水よう液の性質とはたらき」の単元の導入部分でのB.T.B液を使った演示実験などである。</p> <p>児童一人ひとりに(実験装置の数が許される限り)責任をもって、観察・実験を行わせる。</p> <p>ア リトマス紙を使って一人ひとりに10種類の水溶液を調べさせる。</p> <p>イ 自分自身のだ液ででんぷんが、他のものに変化することを調べさせる。</p> <p>児童にとって身近なものを使って、観察・実験を行わせる。</p> <p>5年(下)「もののとけかた」『ものが水にとけても全体の重さが変わらないか』を調べる実験では、粉末レモンテイ-、入浴剤、粉末ポカリスエットなどを使って実験させる。</p> <p>(2) <b>努力事項B</b>について・・・観察・実験をもとに、科学的思考を深めることができるような指導と評価を工夫する。</p> <p>ワ-クシ-ト(自作)で科学的思考を深めさせる。</p> <p>【例】5年(下)「もののとけかた」のワ-クシ-ト</p> <p>実際に、児童Aと児童Bが記入したワ-クシ-ト</p> <p>授業の中で、観察・実験の予想を、理由をつけて書かせてから発表させる。</p> <p>指導に生かすための、無理のない評価規準表を作成する。</p> <p>ア おおむね満足な状態Bで作成する。</p> <p>イ 普段の授業の中で、指導しているのか評価しているのかわからないような、煩雑な評価規準表にならないようにする。</p> <p>ウ 無理なく使いやすい評価規準表にするために、授業では、4項目のうち多くて2項目までの評価とする。ただし、2項目評価するときは、1つは、授業終了後集めたワ-クシ-トや理科ワ-クで評価できるようにする。</p> <p>評価規準表をもとに評価の一覧表(児童の名簿入り)を作成する。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テ-マ 自ら学び、考え、確かな学力を身につけた児童の育成</p> <p>研究の見通し 研究内容・方法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>平成15年度の教科・項目・内容は継続して研究していく。 しかし、反省点は改善していくように計画する。</p> </div>
--------	---

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の成果および課題

### 1. 研究の成果

#### 算数科において

##### (1) 習熟度別の授業では

発表シートやヒントカードなどを活用して、一人ひとりの考えを大切にすることを心がけることができた。

発展コースのつまづく児童の指導のために、昼休みや放課後にコース担当教員が児童を呼んで指導したり、教師間の連絡を密にして、基礎・基本コースの児童といっしょに補充を行ったりできた。

基礎・基本コースの児童でも、少人数であり、T.T指導でもあるため、与えられた課題を全員ができるようになった。

基礎・基本コースで学習している児童は、一つ一つの作業や問題へ取り組む姿勢が、ていねいで、落ち着きが見られるようになった。

それぞれのコースに合った教材や指導法を考えるのは難しいが、コース担当の6人の教員が、協力し合ってきたので、授業も活気にあふれ、児童もいきいきと学習に取り組めた。どちらのコースも少人数なので、机間指導が行き届き、一人ひとりの考えや気づきをその場で観察・評価・支援することができた。

どちらのコースも、ノート指導に力を入れているので、それまでの学習の足跡を参考にしながら、自力解決をしようとする姿が多くなった。

発展コースは、話し合いの時間が充実し、一人ひとりの意見を大切にすることができた。

また、友達の気づきに驚きを感じたり、自分だけの気づきをみんなの前で発表し賞賛されたりして、一斉授業では味わえない満足感を感じていたようである。

発展コースは、理解の速い児童が多いコースなので、基礎コースよりも早く授業を進めることができ、教科書にはない発展的な内容に取り組む時間を充実させることができた。

##### (2) 全校一斉マスタ - テストでは

どの児童も、真剣にマスタ - テストに取り組んでいる。時間いっぱい確かめを行ったり、もう一度すみの方に筆算したりと、丁寧に問題に取り組むようになってきた。

1学期末には、多数の児童が目標の級まで合格して満足していた。到達できなかった児童には、夏休みに補充を行い、ほとんど目標級まで合格した。

##### 7月末における目標達成状況

学 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
目標達成率	100%	97%	99%	99%	100%

##### (1年生は2学期より実施)

意欲的に取り組む児童が多く、一度で合格したときはもちろん、何度も補充をして合格したときも、喜びを感じているようである。

週に一度の緊張した時間で、間違えたくないという気持ちで何回も見直している。

実施後のアンケートから、ほとんどの児童(92%)は「自分なりにがんばっている。」と答えている。また、「早くすんでも時間いっぱい見直しをしている。」「補充でしっかり勉強して、同じところを間違えないようにする。」「級が上がるのが楽しいからがんばれる。」とも答えており、マスタ - テストに対して前向きに取り組んでいることがわかる。

児童は、「マスタ - テストで、短時間で問題を解く力、集中力、苦手な問題を克服する力、ケアレスミスをなくす力などがつく。」と答え、教師側が児童に身につけさせたい力と一致している。

(3) 授業の組み立てでは

低学年では、導入を楽しく取り組めるようにしたり、体感する活動を取り入れたりした。中学年では、少人数の授業の中で「順序選択学習」や「課題解決学習」を取り入れて、児童の意欲を高めたり、操作活動を充実させたりした。

高学年の「発展コース」は、自力解決をめざし答えを出した根拠を明らかにさせるようにした。「基礎・基本コース」は、既習事項を復習してから課題に取り組みせ、関連して考えられるようにした。自力解決の時間を十分にとったため、できた喜び、考えることの楽しさを感じることができたと思われる。

(4) 評価では、

授業の「進度のめやす」と「いつ、何で評価するか」を単元はじめに指導者全員に配布することによって、評価の一般化を心がけることができた。

観察の評価は授業にさしさわらないように心がけ、ノ - トや小テスト、学習のまとめなどで評価できるようになった。

国語科において

(1) 基礎・基本を身につけ、楽しく学習に取り組めるようにする手だての実践において

学習ルールの定着指導

・ 1・2年とも学習はじめカード(しっかり聞く・ていねいに書く・はっきり話す)を利用することで、話す・聞く・書く・読むの言語活動のけじめがつき、学習への集中度が高まった。

・ また、正しい鉛筆の持ち方や字を書く時の正しい姿勢への意識付けによってどの児童も、正確で読みやすい書写力へつながった。

・ 声の大きさや1分間スピーチのヒントは、各教室に掲示することで他教科の学習活動においても利用し定着を図ることができた。

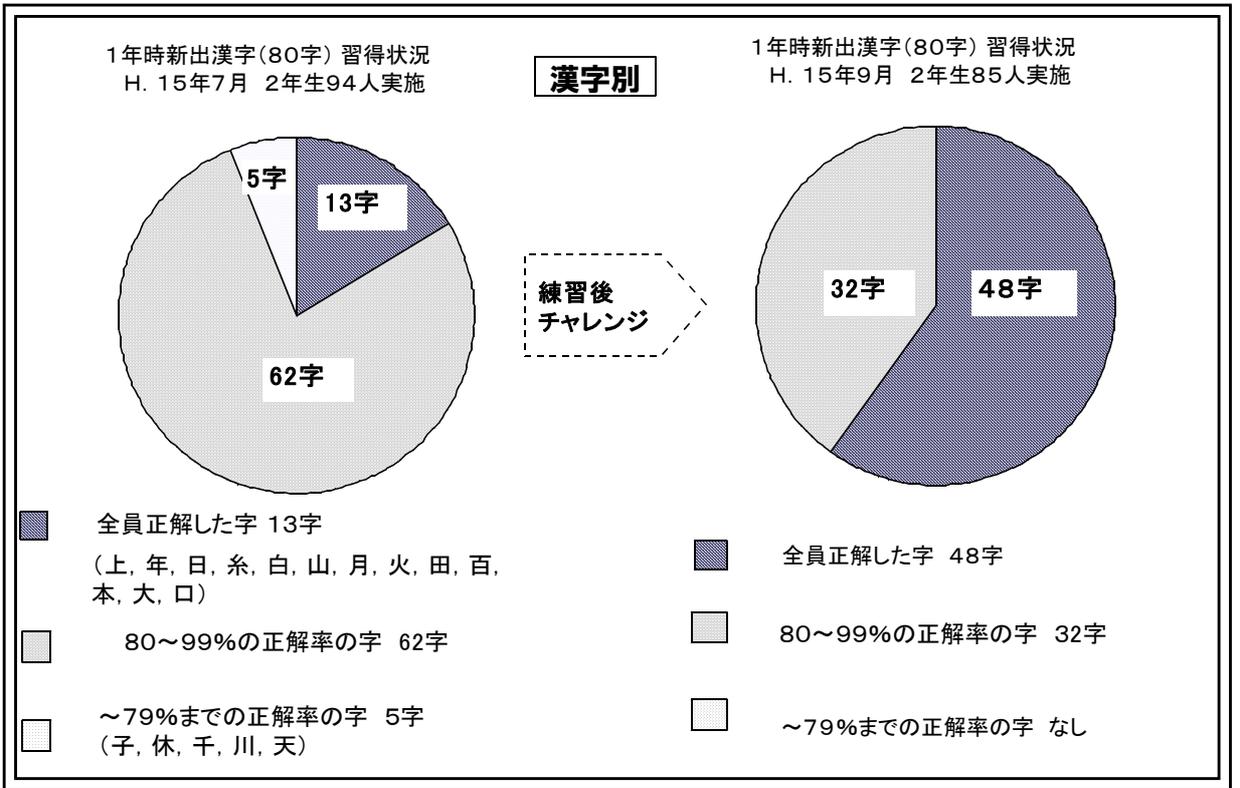
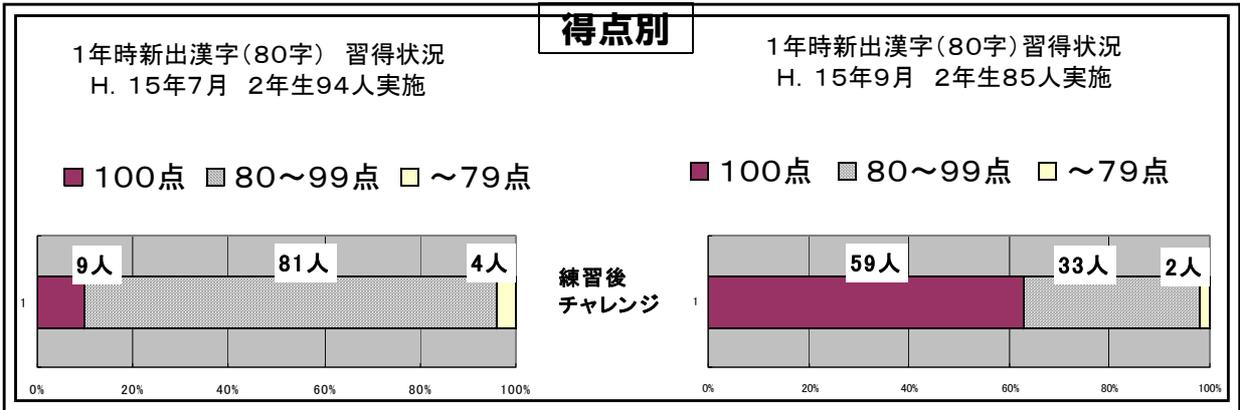
「読めて書ける子」をめざし、金津っ子タイムに視写タイム・読書・音読タイムを取り入れたことで、継続的に取り組むことができた。取り上げる題材の研究は、児童の実態を見つめる機会にもなり、視写ノートの工夫(左利き児童の右ページ手本貼付)や音読のマニュアルについて共通理解しながら学級の実態に合わせて取り組むことができた。保護者からも音読カード点検への協力が得られている。

『1年漢字80字マスターキャンペーン』として、2年生全員が、第1学年担当漢字の習得率を7月に実態調査したが、なぞなぞやクイズ式のテストを利用したので楽しんで取り組むことができた。再度挑戦するときには「漢字徹底練習カード」で練習後、毎週水曜日の清掃のない45分間の昼休みを利用し、T2の教員が指導した。個別指導の徹底で、児童全員が「漢字マスター賞状」をもらうことができ自信につながった。また、教師は間違いやすい漢字の傾向が分かり、以後の表現指導に役立った。・・・資料

『学年漢字テスト』

1・2年共に新出漢字を正しく書き、文や文章の中で使えることをめざして7月から実施した。1年生は、平仮名と片仮名から始め、学年に応じてシール等での励ましをした。内容によって満点の数は推移するが、80点以上の児童が増え、漢字スキルやプリントへの取り組みが真剣になり、家庭学習への意欲も高まってきている。

1年漢字マスターキャンペーン 金津小学校2年生



(2) 共に学び合い、生きてはたらく言葉の力が定着することをめざす実践において

T.T指導は、主にT1教員が授業を進め、T2の教員が児童の意見を整理して板書したり個別指導をした。1年生においては平仮名や片仮名を書く活動、2年生においては新出漢字や作文指導において大変有効であった。また、導入時などの2教員の役割演技やグループ学習時の半分ずつ担当においてきめ細かい支援ができた。

2年生の授業研究6月「とも子さんはどこかな」では、注意深く聞き取り特徴となることを書けるようなワークシート「まいごさがしのおしらせメモ」を工夫することで、どの児童もメモを使って迷子のお知らせの活動をすることができた。

同じく11月「かたかなで書くことば」では、片仮名で書く言葉の4つの仲間をビンゴ形式にするワークシート「かたかな名人」を考えた。また、裏面には片仮名50音表を載せ、表記のヒントカードとした。この2点により、児童の興味関心を高め意欲的に片仮名集

めに取り組むことができた。各教員が相談して自作ワークシートを作成することによって、つまずきを解消し個に応じたきめ細かな指導をすることができた。

国語科で獲得した話す・聞く能力を生活科の「金津っ子まつり」で発揮することができた。2年生の小体育館での発表では、「声に出して読もうー大きくなあれ」の教材を音読にとどまず、1年生に伝えるという目的意識を持って堂々と暗唱することができた。また、各教室でのお店やさんごっこでも、お客さんの気持ちになって説明しようとする姿が見られた。他教科とのネットワークを意識した指導計画により、生きて働く言葉の力を育てることにつながっていくと考えられる。

#### 教科担任制において

##### 社会科

- (1) クイズを通した地図記号の復習(3年)や福井県パズルを使った市町村名の復習(4年)は、単にゲーム化を通して語句の定着を図るだけでなく、その用語の内容の理解にも大変役立った。6年で取り組んだ歴史カルタでは、1学期に学習した23人の人物の習得率調査(人物と活躍した時代と業績を結ぶ形式の問題)は、カルタ実施前(9月)の調査では64.2%だったが、カルタ実施後(12月)の調査では82.5%に向上した。また、1学期の既習人物のカルタを実施していくことで、2学期に学習している人物に対する学習意欲の高まりが見られた。
- (2) 中学年の見学を含んだ単元で、自分なりの言葉で見学後のまとめを表現することができるようにするために、次の2点の授業の展開を工夫した。
  - ア 見学で見たり聞いたりしてきたことをまとめるための観点を、児童から出させていくための発問を開発する。
  - イ 整理された意見の中からいくつかを選択して組み合わせることで、どの児童も自分の意見を書くことができるようにする。その結果、学級のすべての児童が、自分の考えを表現することができた。

##### 理科

- (1) 小学校の教科書では取り扱わない実験、6年(下)の「水よう液の性質とはたらき」の単元の導入部分でのB.T.B液を使った演示実験や、6年(上)「動物のからだのはたらき」の単元で、だ液のはたらきを調べる導入部分では、オブラ-ト(成分は、でんぷん)が不思議の水(だ液入り)で消えてしまう演示実験などを行った。そのため、授業の導入時に、児童たちに驚きを与え、調べてみたいという気持ちを高める工夫ができた。
- (2) 5年(下)「もののとけかた」の単元で、もの水にとけても全体の重さが変わらないことを学習した授業の終了時に、塩化アンモニウム飽和水溶液から結晶が析出する演示実験を行った。『食塩水から再び食塩をとりだすことができるか。』という次時の学習課題への児童の意欲につながった。
- (3) 授業の中で、観察・実験の予想を、理由をつけて書かせてから発表させた。そのため、予想を発表させることを急ぐと、一部の児童だけが考えて、他の児童たちは深く考えようとはせず、ただ受け身的になってしまいがちであるが、十分に書く時間を与えることで、普段あまり発表しない児童たちも、自分たちが書いたものを見て発表すればよいという安心感から、積極的に発表するようになった。また、児童一人ひとりが、自分なりに考えを深めることができるようになった。

## 2. 今後の課題

### (1) 算数科

習熟度別授業では、

- ・ 単元のはじめから終わりまでずっと習熟度別の授業体制をとっている。しかし、導入部分や進度が同じで一斉授業の方が望ましいと思われる部分は、クラス単位の授業にもどすこともよい方法ではないだろうか。「基礎・基本コース」か「発展コース」を決定するのは、6年児童においては、ほとんど保護者に相談するというより自分でコースを決めているので、導入部分の授業(1、2時間)を学習後、コースを決定するのがいいのではないだろうか。
- ・ また、落ち着いた状態で学習がすすめられるように、3クラスを5つに分けるのではなく、1クラスを2つにわけた習熟度別の授業の方が望ましいと考える。

評価では、

- ・ 評価は授業の中で十分支援をして、それを評価する必要がある。数学的な考え方の評価も「考えることができない」から評価が悪くなるのではなく、ヒントを与えたり、考え方の道筋を与えたりした後に考えられたことも評価しなければならない。
- ・ 学年が統一した進度表・評価表に合わせて授業を行うことによって、教師の授業の個性が薄れてくるので、その中でも教師一人ひとりがコースの児童に合わせた指導を工夫する必要がある。

### (2) 国語科

- ・ 15年度は「読めて書ける子」のめざす範囲が、ひらがな・かたかな・学年配当漢字の習得と詩の音読と視写にとどまっている。16年度は、作文力としての書く力・スピーチやコミュニケーションとしての話す力を含めた「読めて書けて話せる子」を目標に、自分の思いを自分の言葉で表現し伝えることができる児童をめざした指導を行いたい。
- ・ 視写や音読の内容では、更に児童の実態を考慮し、適切な題材選択の工夫を図りたい。学年漢字テストにおいても、設問の仕方や取り上げる語句を再検討したい。
- ・ 学習時のワークシートは、ヒントカードやゲムカードなどを取り入れ児童が楽しく取り組めるように改善していきたい。
- ・ TTの効果的な連携を更に研究していく。楽しく学ぶための導入の工夫や書くことの学習での個別指導の方法など、分野を絞って取り組み、個に対応した適切な支援の研究を行う。
- ・ 『ネットワ-ク国語』が更に言葉の力を育成し定着できる場になるように、生活科だけでなく、道徳や各教科とのカリキュラムを比較検討して実践につなげたい。

### (3) 教科担任制(社会科)

- ・ 方位、地図記号、市町村名、都道府県名、歴史人物、歴史用語については、カルタやパズル等で、児童が楽しみながら定着させる指導ができつつある。それ以外の身につけさせたい用語をどのようなやり方で定着させていけばよいかは、今後の研究課題である。
- ・ 中学年の見学後のまとめとして自分の考えをもたせる指導や、1時間の中で資料を読み取って、自分の考えを書かせたり発表させたりする指導を中心に行ってきた。今後は、単元を通した学習課題や単元末の発展的な課題で、自分の考えをもつことができるような指導にも取り組んでいきたい。

### (4) 教科担任制(理科)

- ・ 多くの単元で、児童たちに驚きを与え、調べてみたいという学習課題への意欲を高めるための演習実験を精選し、どの教員が、どの学年の理科を担当しても使えるような冊子を作成していく。

・観察・実験は、予備実験や実験装置の準備など、かなり、教員の労力がかかる。それゆえ、観察・実験を行わず、教科書だけを使って、知識のみを教え込む授業になりやすい。3学級ずつある学年で、理科専門（理科が得意な）教員が、授業の進度的にも先に進んでリ・ダ・シップをとったり、実験で使用する薬品や装置などを用意したりして、できるだけ多くの観察・実験を、児童にさせたい。

### 学力把握のための学校の取組について

定期的な学力調査の実施（年1回）

1年生～5年生・・・国語と算数

6年生・・・算数

県弱点克服ドリルチェックテストの集計および県平均との比較・分析

### フロンティアスクールとしての成果の普及について

《 予定 》

期 日 :平成16年11月17日(水)

場 所 :本校

内 容 :公開授業および実践発表

参加対象:坂井・奥越ブロック小、中学校教員

および県内フロンティア事業指定校教員

本校ホームページに掲載

<http://www.kanazucho-fki.ed.jp/kin-sho/>

平成14年度実践

平成15年度実践

平成16年度実践予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】      15年度からの新規校      14年度からの継続校

【学校規模】              6学級以下              7～12学級  
                                  13～18学級              19～24学級  
                                  25学級以上

【指導体制】              少人数指導              T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制              その他

【研究教科】              国語              社会              算数              理科  
                                  生活              音楽              図画工作              家庭

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  
    有              無